

（2）発震機構（注2）

今回の地震の震央周辺（図1-1の領域aと同じ範囲）の発震機構の分布をみると、概ね北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型の地震が多く発生している（図2）。

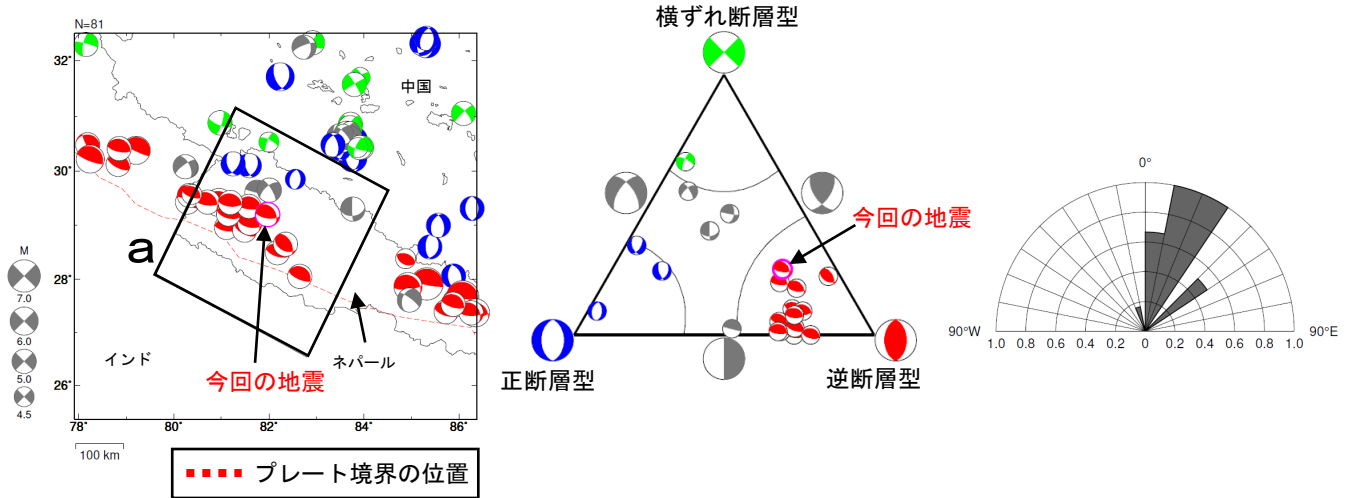


図2 発震機構分布図（左）、領域a内の発震機構の型の分布（中）及び発震機構の圧力軸の方位分布（右）
（1980年1月1日～2023年11月30日、深さ0～100km、Mすべて）
逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。

（3）過去に発生した主な地震（注3）

1904年以降の活動をみると、今回の地震の周辺（領域b）では、M7クラスの地震が時々発生しており、大きな被害を伴っている。1934年1月15日にはM8.0の地震が発生し、死者10,700人などの被害が生じた。また、2015年4月25日にはMw7.9の地震が発生し、死者8,776人などの被害が生じた。

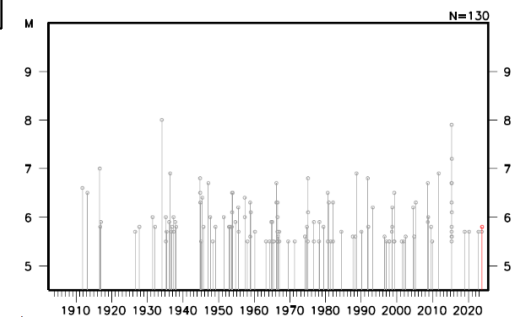
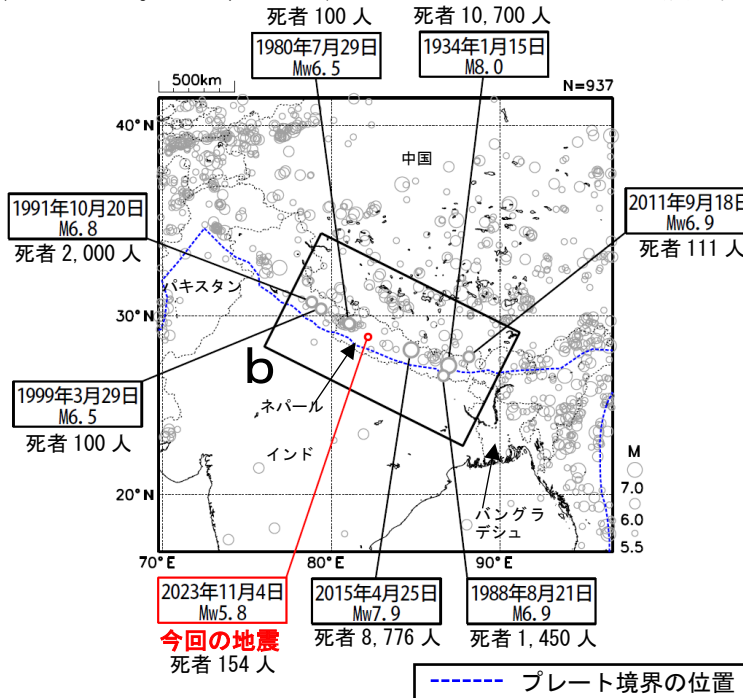


図3-2 図3-1の領域b内のM-T図

図3-1 震央分布図（1904年1月1日～2023年11月30日、深さ0～100km、M≥5.5）
2023年11月の地震を赤色で表示
死者100人以上の地震に吹き出しを付加

（注2）震源要素及び発震機構は、今回の地震は気象庁、その他の地震はGlobal CMTによる。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

（注3）震源要素は、2019年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 10（1904-2019）、2020年以降は米国地質調査所（USGS）による（2023年12月6日現在）。ただし、吹き出しのある地震のMwは、今回の地震、2011年9月18日の地震及び2015年4月25日の地震は気象庁、1980年7月29日の地震はGlobal CMTによる。被害は、今回の地震はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所、2023年11月27日現在）、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochimica Geophysica Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.